

「不要な増量で副作用頻発」

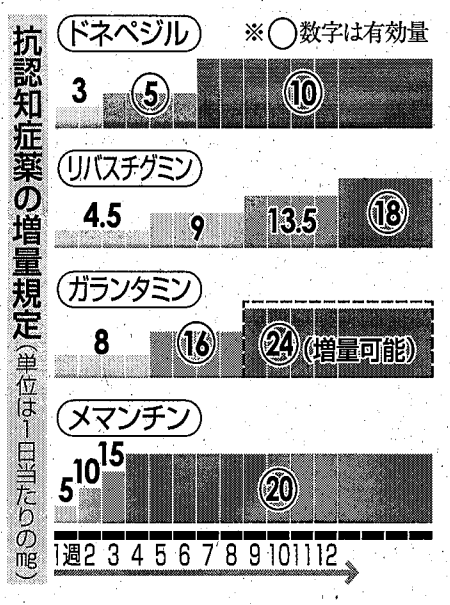
認知症薬「適量処方」を

医師ら団体設立 規定に反発 実態調査へ

認知症の薬の使用規定により不必要な増量を強いられた、患者が怒りっぽくなるなどの副作用が頻発しているとして、高齢者医療に携わる医師らが適量処方を推進する団体を26日までに設立した。全国の医師や患者家族に呼び掛け、副作用の実態調査に乗り出す。

症状の進行を抑える抗認知症薬は4種類が承認されており、いずれも少量から始め、約1・7〜4倍に増量するよう添付文書で規定されている。医師の裁量で用とみられる症例や診療報酬の請求が拒否された事例を収集し、厚生労働省や製薬企業などに、適切な処方ができるよう求めていく。

代表的な抗認知症薬「アリセプト」(一般名ドネペジル)を販売するエーザイ



高齢化社会で認知症の増加が見込まれる中、投薬治療をめぐる問題提起がされた形だ。

団体は一般社団法人「抗認知症薬の適量処方を実現する会」(代表・長尾和宏、医師)。自民党の山東昭子参院議員が名誉会長に名を添付文書に「症状により適宜減量する」と記載されている製品もあるが、規定より少ない量で処方すると地域によっては診療報酬細書(レセプト)の審査で認められない場合があり、効果的な少量投与を医師が控える状況だという。レセプトは都道府県ごとに審査機関が行っている。

同会は11月23日に東京都内で設立総会を開催し、副作用の実例を公表。副作用

少量、中止で改善例も

「認知症の薬を患者の状況に合わせて使わせてほしい」。認知症医療に携わる医師らが団体を結成して現行の投薬規定に反発する声を上げた。規定量で症状が悪化したり、少量投与で良好な状態が続いていた患者の経過はさまざま。診療報酬の請求が認められず、約400万円もの損失を被った医師もいる。

埼玉県に住む82歳女性は2年前にアルツハイマー病と診断され、抗認知症薬ド

「医師の裁量認められず」

副作用があったケースではないが、同県内の84歳男性は70代後半に「誰かが投光器で家の中を照らしている」との幻視に悩まされた。記憶力も落ち、レビー小体型認知症と診断された。処方されているドネペジルは規定量の半分の2・5ミリ。

副作用があったケースではないが、同県内の84歳男性は70代後半に「誰かが投光器で家の中を照らしている」との幻視に悩まされた。記憶力も落ち、レビー小体型認知症と診断された。処方されているドネペジルは規定量の半分の2・5ミリ。

微妙なさじ加減必要

抗認知症薬の適量処方を求める会を代表を務める長尾和宏・長尾クリニック(兵庫県尼崎市)院長の話。抗認知症薬を初めから増量して怒りだしたり暴れたたりする患者が少なくない。増量規定が厳格すぎると、医師は微妙なさじ加減を要する。増量が必要な場合、医師は患者の状況に合わせて、少量から始め、徐々に増量していく必要がある。

福島の高校で 女子生徒自殺

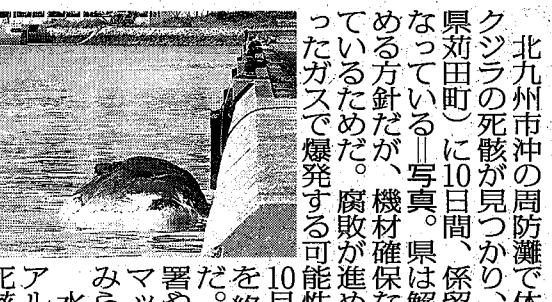
福島県教育庁は25日夜、同県会津地方の県立高校で女子生徒が首をつって自殺しているのが19日に見つかったと明らかにした。教育庁は26日午後記者会見し、女子生徒が所属する部活動の生徒を対象にアンケートした結果、部活内での人間関係のトラブルを指摘する回答が7人からあったと公表した。

代理処罰で禁錮16年

長野県松本市で2002年男性が殺害された事件で、日本政府の代理処罰(国による訴追)を請うた。殺人罪で起訴されたジョージ・ソノダ被告(37)に対し、裁判所は25日までに禁錮16年を言い渡すことが可能。

16日クジラ死骸、北九州市沖の周防灘でクジラの死骸が見つかり、県田町に10日間、係留されている。写真は、県田町にあるクジラ死骸の写し。

北九州市沖の周防灘でクジラの死骸が見つかり、県田町に10日間、係留されている。写真は、県田町にあるクジラ死骸の写し。



「パンに髪」偽クレーム騒ぎ、伊丹署は26日、詐欺の疑い(45)を逮捕した。伊丹署は25日、伊丹市にあるパン屋で、パンに髪を混ぜたという偽クレームを繰り返していたと、伊丹署は26日、詐欺の疑い(45)を逮捕した。

FIFA汚職

ブラッター会長聴取

スイス検察 背任、横領疑い

ブラッター氏は2011年「それを確かめるだろう」

までの所得を過少申告し、6300万レアルを脱税したとされている。ネイマール選手に関しては、今春にもバルセロナとクラブ会長らが獲得費用を偽って脱税した容疑でスペインの裁判所に起訴された。

死亡はサトウ・ママさん

【ロサンゼルス共同】米西部シアトルで24日、バスと観光用水陸両用車が衝突して留学生4人が死亡した事故で、地元公立大ノース・シアトル・カレッジは25